NPO 森を再生する会会報　第11号

http://www.katch.ne.jp/%7Ekamiyaf18/

平成１７年６月５日

日本一多くの木を植えた男

　世界中に３０００万本の木を植えた男がいる。人間、本気になればできないことはない。緑と付き合って５０年、徹底した現場主義を貫く。台風にも、地震にも、火事にも強い、いのちを守る本物の森を共につくりましょう。

宮脇昭先生 NHK 新番組に登場！

知るを　　この人

楽しむ　　この世界

２００５年 NHK 教育テレビ月曜日

教育テレビ放送予定日

〇月曜日　　午後１０：２５から１０：５０

〇翌週月曜日（再放送）午前５：０５～５：３０

〇　翌月水曜日（再々放送）午前２：００～２：２５

第１回　ホンモノの森、ニセモノの森　6/6,6/13,7/6

第２回　鎮守の森はタイムカプセル　6/13,6/20,7/13

第３回　目で見て、匂いをかぎ、舐めて、触って調べる　6/20,6/27,7/20

第４回　私が初めてつくった森　6/27,7/4,7/27

第５回　完成！『日本植生誌』　7/4,7/11,8/3

第６回　森が災害から守ってくれた～阪神・淡路大震災の現場から　7/11,7/18,8/10

第７回　世界に森をつくる　7/18,7/25,8/17

第８回　本気になればできるんです　7/25,8/1,8/24

１０月２３日（日）NPO 森を再生する会植樹祭は、宮脇昭先生の直接指導で植樹を行います。

ロゴソール移動式製材機を購入

これまで、切り倒したスギ・ヒノキは利用されないまま、山に放置されています。この材木を製材して利用できるようにします。最大外形６０ｃｍ、長さ５ｍの木材を必要に応じて、梁、柱、厚板材、板材、木舞等の建築用材に製材できます。アウトドア用の椅子やテーブル、ログハウスに挑戦して趣味を広げてみませんか？

講習を受けてから　チェンソー、製材機、道具は便利ではありますが、危険と隣り合わせです。安易に使うと大怪我の元。道具も傷めます。この機会にぜひ講習を受けてください。講師はプロ中のプロ。本物に出会うことで「目から鱗」の感動を味わうことができるでしょう。

テェンソー＆製材機講習会

◆期日：平成１７年**６月２６日（日）**１３：００～

◆場所：NPO 森を再生する会『水源の森』
　　愛知県北設楽郡設楽町大字田峯字西川

◆講師：畠山商事代表取締役　畠山芳雄氏

◆内容：（１）チェンソーの構造・使い方・刃の研ぎ方
　　（２）製材機の構造・使い方

※雨天でも行います。

※午前中は植樹をします。（１２０本予定）

参加申し込みは事務局へ

〇特定非営利活動法人森を再生する会事務局
　　愛知県西尾市本町３０番地
　　電話：０５６３－５４－１０１８
　　Ｅｍａｉｌ：emtown2002@ybb.ne.jp

春の植樹祭を終えて

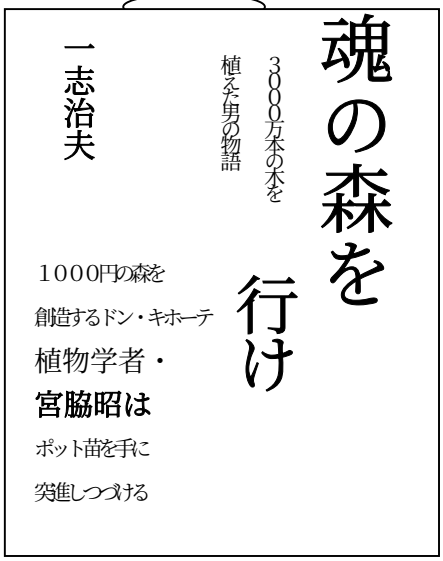
５月１日、春の植樹祭を予定通り成功のうちに、終えることができました。参加者は６０名ほど。まさに老若男女の混成チーム、「本気でやればできないことはない！」宮脇先生の言葉通り、３６０本の苗木を２時間ほどで植えることができました。樹種は土地本来の木であるブナ、ミズメ、ミズナラ、アカシデ、コハウチワカエデ、ホオノキ、トチノキ、キハダ、ウワミズザクラ、ミズキの９種類。午後からは恵みの雨がパラツキ、絶好の植樹日和でした。

３人で１００本植樹！

５月２２日（日）は、定例活動日。国土緑化推進機構から苗木の助成をいただいていますので、この日も１００本用意していました。ところが、生憎の雨模様。集まったのは、３人(取り掛かりは２人)。早速植樹に取り掛かり、一人３０本ほどを２時間で植えました。「木を植えた男」の本が一時話題になりました。大勢で植えるのも楽しいのですが、木を植える意味がわかっていれば、一人でもどうってことありません。むしろ、木を植える実感がジワッと湧いてきます。小雨が降って、木も喜んでいるようでした。

補植をしようと、昨年植えた木を見て回ったのですが、枯れていたのは１本だけでした。置いただけで、土が被せていない状態のものでした。丁寧に植えれば、１００％の活着率です。ポット苗のすごさを見せ付けられました。さらに、その成長のすごさ！トチノキなど６０ｃｍ以上伸びていました。大きな葉を広げて。

生態系を蘇らせる！
お薦めしたいこの一冊



「何千年もその土地の人々と生きてきた鎮守の森を、千年後の子孫に残したい。そんな一人の男の情熱が今、世界中の森を蘇らせ始めた」（声＝田口トモロヲ/ＢＧＭ=『地上の星』）.....と、そんな大仰な演出は不要。『魂の森を行けー３０００万本の木を植えた男の物語』は、このままで十二分に感動的なドラマだ。

主人公は植物生態学者・宮脇昭、７６歳。「地球上の砂漠の３分の２は人間がつくった。その土地本来の森をつくれば元に戻る」という理論と信念のもと、彼は半世紀にわたって世界を歩き、人間が影響を与える前の潜在自然植生を復元し続けてきた。木を植えさせすればよいのではない。

（以下略　MEDIA WATCHING より抜粋）

会費2，000円に

17年度総会終わる

ご案内のとおり、4月16日（土）NPO森を再生する会総会を開催し、議案についてはすべて原案通り可決されました。そのうち、会費については、16年度総会で会費値上げのご意見をいただいた通り、当初の会費1，000円を2，000円とする案が可決されました。活動が一層充実し、会員のみなさんのご期待に応えるよう取り組んでまいります。

会費振込先（郵便局）：口座番号0870－7－113816（通常払込料金加入者負担）
加入者名＝**森を再生する会**

明治用水から

6月1日明治用水会館を訪ね、神谷金衛理事長さんとお話をする機会があり、明治用水の抱える様々の問題をお聞きすることができました。

水不足

その日は、節水対策の会議が開かれていました。羽生ダムは慢性的な水不足。羽生ダムからの水系にある我が家の田んぼの用水は「3日通水、3日断水」というのが例年の状況です。羽生ダムは容量が少ないということもありますが、山が緑のダムになっていないということも大きな原因。矢作ダムは、土砂が流れ込み、貯水量が減少している。浚渫も莫大な費用がかさむので打つ手なし、という状況。水源地には緑のダムを早急に回復しなければならない。

消え行く農地

安城市は、都市化、工業化が急速に進み、そのあおりで農地の転用に拍車がかかっています。明治用水のおかげで、荒地を農地に変え、日本のデンマークといわれた安城市が今脱農業をめざしているような様相を呈しています。

工業発展の中で農地を無計画につぶしていくのを見るにつけ、心が痛みます。日本の農業、とりわけ水田は水を多用し、生態系豊かな環境を生み出す産業です。カエルの鳴き声を身近に聞くことのできる居住空間は、それだけで癒しの空間でもあります。

どこの町にも言えることですが、住みよい町として発展するには、農地や自然を確保し、緑豊かなしっとりと落ち着いた町にすることが人間の居住空間としてめざす方向です。人口が増えることや工業化を経済の数量だけの数字に惑わされず、量より質を大切にする時代です。

目に見えないもの

エコロジー・環境は目に見えにくいもの、ましてや数量化や科学で単純に説明できない部分があります。でも、人間のすぐれた感性はそれを鋭く捉えることができます。市民が、目に見えるものばかり追わず感性を研ぎ澄ませ、未来永劫に続く、住みよい町づくりに向けて進みたいものです。